

構想の実現状況等（概要） ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】

## 【Ⅰ. 事業全体の取組について】

以下の取組を実施したことにより、事業開始当初と比較して、着実に国際化を推進できたと結論付ける。

### 学長の強いリーダーシップに基づく抜本的な大学改革

- (1)ガバナンス改革による事業実施体制構築
- (2)KUGSに基づく新カリキュラムの導入
- (3)「金沢大学ブランド人材」育成を担う教育組織の再編

### 英語力を磨き、英語で学び、英語を使って交流するキャンパスへ

- (4)金沢大学スーパーグローバル ELP(English Language Programs)センターによる全学英语力強化
- (5)英語に強い金大生の育成

### 海外ネットワークを使って「在学中に海外留学」が当たり前の大学に

- (6)海外拠点をハブとした重層的教育研究ネットワークの構築
- (7)留学サポート体制の充実化による海外派遣の強力な推進

## 【Ⅱ. 事業期間での大学の成長(アウトカムとの繋がり)】

### (1)ガバナンス改革による事業実施体制構築

大学改革断行の司令塔である「大学改革推進委員会」の下、学長を委員長とするSGU推進会議の設置により、学長主導で迅速に国際化・大学改革を断行できるようになった。事業採択後に定めた「ロケットスタート計画」(2014～)、「スイングバイ計画」(2018～)、「ファイア・アップ計画」(2019～)「スペース・クルージング計画」(2021～)で活動を具体化することにより、全学で事業を推進してきた。外部の意見(外部評価委員会、ステークホルダー協議会等)を取り入れることにより、PDCA サイクルを回し、経常的に計画改善や事業効率化に取り組んだ。

### (2)KUGSに基づく新カリキュラムの導入

2016 年度に国際基幹教育院を設置したことより、自己の使命を国際社会で積極的に果たし、恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備えた人材を育成するため 6 つの「金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)」に基づく新カリキュラムを構築できた。また、同時導入のクォーター制学事暦により、留学(派遣・受入れとも)しやすい環境となった。アクティブ・ラーニングの推進や学修成果の多元的評価法確立にも取り組み、全学生が KUGS の能力を修得できるカリキュラムを実質化し、共通教育の国際化を加速度的に進展させることで、令和 5 年 5 月開催の G7 富山・金沢教育大臣会合のエクスカースションに対応できる学生が難なく集まる水準に至った。

### (3)「金沢大学ブランド人材」育成を担う教育組織の再編

社会の変化に対応し、2018 年度に 3 学域 17 学類に再編。2021 年度には分野融合型の教育を行う「融合学域」を設置した。また、2018 年度以降順次、大学院新学術創成研究科の各専攻、ナノ精密医学・理工学卓越大学院プログラムを設置したことにより、分野融合型研究や国際共同研究に基づき、高い専門能力、国際就業力を備えた高度専門人材を養成している。

### (4)金沢大学スーパーグローバル ELP(English Language Programs)センターによる全学英语力強化

2015 年度に米国の重点交流校と連携して「金沢大学スーパーグローバル ELP センター」を設置したことにより、教員・職員・学生向け英語研修プログラムの実施により全学的な英語力向上に大きく貢献している。

### (5)英語に強い金大生の育成

在学中 2 度の TOEIC-IP 受験を必須化。2021 年度以降の入学者に対し、英語外部試験スコアを卒業・修了要件に加えた。これらにより、指標とする TOEIC760 点を満たす学生数は順調に増加した。

### (6)海外拠点をハブとした重層的教育研究ネットワークの構築

重点交流校(又は地域)として選定した米国、ベルギー、タイ、中国に本学海外拠点を設置。ドイツ、ロシア、タイに海外事務所を開設したことにより、大規模派遣プログラム、ジョイントシンポジウムや研究交流会、教職員の相互交流に繋がり、多面的かつ重層的な連携協力の下、教育研究ネットワークを構築に至った。

### (7)留学サポート体制の充実化による海外派遣の強力な推進

海外派遣を一元的にサポートする「スタディアブロード・オフィス」の「留学推進室」への改組(2020 年度)により、受入れも併せて行うようになった。「スタディアブロード奨学金」(本学独自)による経済的支援により、海外大学等で学修経験をもつ学生の割合が 2019 年度には 30%を超え、国際通用性を備えた「金沢大学ブランド」人材の輩出に繋がった。

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】

## 【Ⅰ. 事業全般について】

## 学長の強いリーダーシップに基づく抜本的な大学改革

## (1)KUGSが目指す人材獲得に向けた入試改革

2018年度入試から「文系一括、理系一括入試」を導入したことにより、1年次に幅広い分野に触れて視野を広げ、アカデミック・アドバイザー等によるサポートの下、学類へ進級する効果的な Late Specialization を実現した。2021年度入試からは、「KUGS 高大接続プログラム」と連動して KUGS に適った人材を受け入れる「KUGS 特別入試」及び数学・文学に秀でた人材を受け入れる「超然特別入試」を実施しており、KUGS の理念を入試から卒業・修了まで一貫させることで「金沢大学ブランド」人材の育成を推進した。

## (2)人事制度を活用した戦略的な人材確保

教員募集における国際公募や英語による授業担当必須化の明記により、外国人教員や豊富な国際経験を有する日本人教員を増員し、授業の英語化や教育の国際標準化に繋がった。

## 英語力を磨き、英語で学び、英語を使って交流するキャンパスへ

## (3)キャンパスの国際化の推進と日本人学生と外国人留学生の交流

## &lt;附属図書館&gt;

テーマについて英語でフリートークする「English Hour!」や、英語力強化をサポートするライブラリー・ラーニング・アドバイザー (LiLA、留学生を含めた英語や日本語が堪能な大学院学生が従事)の活動等、日本人学生と留学生が英語を使って交流する機会を設け、国籍や専門分野を超えた交流を促進している。

## &lt;学生留学生宿舎のレジデントアドバイザー(RA)&gt;

RA は留学生と共に宿舎の同じユニットに住み、留学生の生活上の指導・助言を行う。留学生にとっては身近で心強いアドバイザーであり、RA にとっては異文化理解の貴重な体験となる。このシステムを 2017 年 3 月に完成した宿舎「北溟」にも採用したことで、学生の日常生活の国際化に寄与した。

## &lt;KU-SGU Student Staff&gt;

KU-SGU Student Staff は 2016 年度に本事業の推進に協力する学生組織として発足し、留学制度説明会、留学経験者との相談会及び外国人留学生との交流会といった学生向けのイベントを運営することで、学生が留学推進機運を高める活動に主体的かつ積極的に参画するようになった。中でも、2022～23 年度に実施した日本人学生と外国人留学生がペアとなり相互の語学学習及び文化交流を行うタンデムプログラムは人気を博し、合計 236 組が活動した。

## 海外ネットワークを使って「在学中に海外留学」が当たり前の大学に

## (4)コラボラティブ・プロフェッサー (CP)の多方面での活躍

海外大学の教育研究職に就いた本学の卒業者・修了者等を CP に任命し(2023 年度末時点で 215 人)、海外拠点等を活用して派遣学生の支援や留学生のリクルートに従事するシステム。これにより、留学生が将来 CP となって留学生獲得に寄与するという好循環が生まれた。また、CP による海外拠点の開設や留学フェア開催への積極的関与により、本事業による人的ネットワーク拡大が日本留学海外拠点連携推進事業や大学の世界展開力強化事業といったほかの国際交流事業の推進にも波及している。

## 【Ⅱ. コロナ禍への対応について】

- 2020 年度は準備した公式海外派遣プログラム 83 件を全て中止した。一方、上述の CP や本学の海外事務所の尽力により、代替オンラインプログラムの開発を進め、公式海外派遣プログラム数(単位認定有)は 23 件、159 人の参加に繋げることができた(参考:2021 年度は 28 件、218 人)。
- CP 及び本学の海外事務所の尽力により、学生交流(ベルギー)・シンポジウム(ロシア)・日本語教師講座(ベトナム)・留学フェア(タイ)・就職フェア(タイ)をオンラインにて開催できた。
- 2020 年度、本学の指示で留学から帰国した学生の旅費(131 人)、外国人留学生が入国する際(再入国含む)の水際対策対応のための宿泊費(111 人)等、コロナ禍起因の費用負担について支援を行った。
- 授業オンライン化で蓄積した GS 科目(KUGS に基づいて考案した新たな授業科目群)等の授業動画コンテンツの英訳を進め、日本語でも英語でも学べる教材を整備した。